

No.36

発行:2014(平成26)年2月



玉の浦

今号の主な記事

会長挨拶
学長挨拶
退職教員挨拶
卒業生寄稿
現在の大学
大学での各行事紹介
同窓会総会開催報告
ホームカミングデーのお知らせ
同窓会事務局からのお知らせ

尾道市立大学同窓会会報

会長挨拶



同窓会長

若住 久吾

(経済科8回生・昭和35年卒)

まずは、名簿発行が遅れておりますことを、お詫び申し上げます。名簿発行については、個人情報保護法の制定などの関係で賛否が分かれておりまして、検討を続けております。

同窓会の統合については、短大同窓会を四年制の学生諸君の理解を得て、スムーズ且つ発展的に継承していただくこととなり、早9回の卒業生を受け入れることが出来ました。今後は、若い力を取り入れて同窓会の運営を図りたいものと考えております。具体的には、理事として順次四大卒の方々に参画していただくことが肝要であろうかと思ひ、実行しているところです。平成25年度の総会では、理事、監事など6名の方々に加わっていただき、運営全般に協力をいただいております。

母校キャンパスも整備が進み、一変しております。この春には、新校舎も完成し、大講義室や教員の研究室などが一層整備されると聞いております。

我が同窓会も、大学の充実を願ひ、図書の充足にと一千万円相当の書籍等を贈り、図書整備の一助といたしました。大学も予てから、蔵書の増冊に努めてこられました。より早く充実して欲しいとの教員と学生の共通の願ひがあると聞き、幹事会、理事会、総会で議論し「一年でも早く充足して勉学の深まりを期待する」といたしました。

ほんの一部の活動を紹介しましたが、今後の母校の発展を願ひつつ、みなさんと共に同窓会活動を進展させたいと願っております。

より一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

退職教員挨拶

2014(平成26)年3月31日をもって退職される先生にご寄稿をお願いいたしました。



経済情報学科教授
勝矢 倫生

退職にあたって～回想のまに～

本年3月末日をもって、本学を定年退職することになりました。これまで職を全うできましたのは、教職員の皆様方、卒業・修了生を含む多数の学生諸君の支援の賜物であり、深く感謝を申し上げます。

思い起こせば昭和50年4月、本学の前身である尾道短期大学経済科に講師として赴任して以来、39年の歳月が流

れました。「その間にお前はどれだけのことを成し遂げたのか。」と問われると返答に窮しますが、教育も研究も、機会が与えられた時には学内運営も、自分なりに精一杯やってきましたということで、ご海容をいただきたいと思ひます。

着任当時の短大は、経済科と国文科の2学科で成り立つまことに小さな学園でした。しかし、学生の学習意欲は強く、しかも固い連帯感で結ばれており、自由で闊達な空気に満ち溢れていました。研究室に訪ねてきた学生達と夜遅くまで話し込むこともしばしばありました。皆で囲んだあの丸形ガスストーブのぬくもりの記憶は、今も私の心を温めてくれるかけがえのない宝物です。

平成13年、本学は2学部3学科を擁する四年制大学となり、大きな飛躍を遂げました。私の所属する経済情報学部では、男子学生が女子学生の数を圧倒していますが、成績では常に多数の女子学生が上位を占めています。男子学生の更なる奮起を期待する気持ちとともに、学業に精励した短大時代の先輩達の伝統を今も女子学生達が引き継いでくれていることを嬉しく思う心を抑えきれません。

少子化の進行、経済社会の変動など、多難な時代を乗り切って、尾道市立大学、経済情報学部が益々発展していくことを心より願っております。



経済情報学科教授
小谷 範人

尽きぬ思い出

私は、銀行で約30年間勤務した後、2001年4月に、短期大学から四年生大学に転換した本学に赴任しました。それからの13年間、今から思えばあっという間でしたが、とても充実した楽しい教員生活を送ることができ感謝しています。

思い出はたくさんありますが、まず大学の就職支援体制づくりに微力ながら貢献できたことが挙げられます。開学直後から広島、山口、愛媛県内の大学の就職部を訪問し、就職支援体制を学びました。今では、多くの人財を世の中に送り出す体制が整い、隔世の感があります。

また、「インターンシップ」、「キャリア形成入門」等の科目開設や、文部科学省からの支援で、「キャリア形成演習」、「コミュニケーションの基礎」等の科目から成る革新的なキャリア教育制度の構築に携わることができ、苦勞もありましたが良き思い出となっています。

ゼミ活動では、毎年夏休みに中国や香港に研修旅行に出かけたことが懐かしいです。アジアの異文化や食文化等に触れ、訪問した金融機関や製造業の方から、若いうちに海外や海外の生産現場を見ることの大切さなどを教わり、学生は国際感覚が身に付いたと思ひます。

新校舎完成と同時に久山田の地を離れるのは残念ですが、今後も卒業生の方との交流ができれば嬉しいです。人間の能力に差はありません。違いがあるのは、志の高さ、思いの強さだと思います。卒業生の方々のご活躍とご多幸を、そして大学のご発展をお祈りしています。ありがとうございました。

本学は、尾道市立女子専門学校として誕生してから本年度(2013年度)で68年目を迎えます。また、短期大学への改変後64年、四年制大学への改変後13年が経過し、昨年度からは公立大学法人化し、名称も尾道市立大学に変更し、新たな出発をいたしました。

このような移り変わりのなかで年輪を重ね、現在本学は経済情報学部経済情報学科、芸術文化学部日本文学科、および芸術文化学部美術学科の2学部3学科からなる全国的にもユニークな大学へと成長し、卒業生も2万人を超えるまでになりました。本学の発展に貢献されてきた先人達、とりわけ終戦直後の困難な時期に本学の設立を決定した尾道市当局ならびに市民の教育に対する熱い想いを受け継ぎ、本学をさらに発展させていくことが、本学に身を置く者の責務であると考えています。

本学が現在の久山田キャンパスへ移転したのは1962年です。その後移転当時に建設されたA棟・B棟に加え、1988年にC棟、四年制大学となった2001年にC棟の増築、D棟(美術学科棟)が建設されました。その後、学生数の増加によって教室が不足し、また、移転当初に建設されたA棟・B棟が老朽化したため、尾道市において、2012年度に新学舎建設が予算化され、一昨年10月から新学舎E棟の建設が着工されました。本年3月には竣工を予定しており、4月からは新たに整備された教育環境のもとで新学期を迎えることとなります。

このたび、新学舎の完成を機に、本学では6月22日(日)に同窓生を母校にお迎えする第1回のホームカミングデーの開催を計画しています。是非、多数の同窓生の方々にご出席していただき、新しい母校の姿を見ていただければと思っております。教職員一同、皆様のご来学を心からお待ちしています。



学 長
足立 英之



日本文学科教授
村田 正英

謝辞

非常勤講師として、初めて教壇に立った昭和48年春から数えて41年のとし月をこの学び舎で過ごすことができましたことは、拙い私を今日まで教え導き、また支えてくださった先輩諸先生ならびに学生の皆様のお陰であり、心より御礼申し上げます。

大学の指導教官の奨めで、尾道短期大学の非常勤講師の職を得、御挨拶のため初めてこの久山田の学び舎を訪れた日は、学長が八木寛先生から吉田眞三先生に代わり、学長の事務引継ぎが行われていたちょうどその日でした。八木先生にお目にかかったのはその時が最初でしたが、退職後も教職関連科目担当の非常勤講師として来ていただいたので、折にふれ、そのお姿を拝見し、また学生たちから先生の授業での話を聞くなどして、間接的ながら教えを頂いたように思っております。

吉田先生は、未熟な私に対しても「村田さん」と「さん」付けで呼んでくださり、それまでは後輩からしか「さん」付けで呼ばれたことのなかった私は、いささか戸惑ったものでした。しかしその後、それが、先生のお人柄と、教育についてのお考えからくる当然の呼びかけであったと気がつき、その呼びかけに値する人間にならなければ、と思うようになりました。

その他にも多くの先生方との出会いや別れがありました。それぞれの先生方から多くのことを学ばせていただきました。翻って、今の私は、何を残し得たのか、考えると絶望的な気分になります。

ただ、学生たちと楽しい時間を過ごせたこと、これだけは、良かったと思っています。

この学び舎で、多くの方々と充実したとし月を過ごすことが出来、幸せでした。本当にありがとうございました。



美術学科教授
児玉 康兵

筋書きの無いドラマの1ページ

私は、四年制大学が開学すると同時に彫刻担当非常勤講師として赴任いたしました。開学の3年程前に開催した個展をご覧になった当時短期大学学長森山茂先生から声をかけて頂いたのが、尾道に来るきっかけです。赴任当初、当時の亀田市長より尾道大学開学記念碑(短大後援会寄贈)の依頼を受け制作しました。また、市立美術館前のモニュメントの依頼も受け、尾道出身者として尾道に「千年ほど遺る物」を創ろうとの想いで制作しました。

2008年よりデザインコースの教授として着任する事に成り、今度は全国から来ている学生達の作品を尾道市内に残してやろうと考えました。多くの市民の方のご支援により、地域貢献プロジェクトを学生達と共に立ち上げ、作品を市内に残す事が出来ました。

主なプロジェクトを振り返ってみますと、東尾道彫刻公園、西郷寺七福神、学内に設置した法人化記念碑、西國寺のご支援のもと毎年秋に開催させて頂きました「尾道大学石像彫刻展」(第1回から第7回、西國寺)、また、この石像展をご覧になった平山郁夫美術館平山助成館長の依頼を受け、大学生が石彫を指導し、瀬戸田の小中学生が石像を制作しました。そして、小学生のデザインをもとに大学生と小学生達が制作した石造彫刻「東日本大震災の復興を願う・祈りの像」を含め過去8年間におよぶ石像作品237点が瀬戸田興福寺に永久設置されることが決まり、2013年12月8日に関係者多数出席のもと、奉納供養式が営まれました。

大河の如く、たゆまなく流れる歴史の中で、学生達と共に「筋書きの無いドラマの1ページ」を刻む事が出来ました。まだしばらく非常勤講師として勤務することになりました。同窓会のますますのご発展をお祈りいたします。

卒業生寄稿

graduate

卒業生からのメッセージ

学びを生かす

昭和36年4月の入学から、早いもので半世紀以上の年月が流れ、高齢者と呼ばれる齢を迎えました。しかし、あの学生時代の様々な記憶は、今でも鮮明に蘇ってきます。

短大の前半1年は、戦前に建てられた長江の木造2階建ての学舎で、後半1年は久山田水源地湖畔の白亜の新学舎で学ぶことができた幸運な1人です。入学同窓生84名中男子はわずか7名でした。担任は吉田眞三先生（後の第4代学長）。ホームルームでの自己紹介のあと、開口一番、「国文科の7人の侍は、卒業しても教師

以外の道はないもの」と思い、勉学に励め。私がまとめて面倒をみる。」笑みを交えた温和な声でしたが、私には何故か胸につき刺さる言葉でした。在学中は文芸部と柔道部に籍を置き、また、野上久人先生主宰の「世紀」短歌会の同人として、作歌の指導も受けました。卒業記念に個人歌集「霜の層」を自费出版することができたのも多くの師友の賜物と、今でも時あるごとに思い出しています。全教科を履修し、玉川大学通信教育並びに夏期スクーリングの全単位が取得できたときは、吉田先生と八木寛先生（後の第3代学長）との出会いに感謝したものです。昭和38年、玉川大学小原国芳先生の「全人教育」と「ペスタロッチの教育思想」に魅せられ、卒業と同時に教職の道に入り、40年間尾道市内の公立学校に勤め、平成15年3月に定年退職しました。

現在は、細々とした農業のかたわら、教職時代に支えられた社会への奉仕の気持ちで、社会福祉協議会や公衆衛生推進協議会のお世話、放課後子ども教室の運営など、学校支援ボランティア活動をしながら、学んだこと社会で生かされたことを、少しずつ地域へお返しする活動をしています。



短期大学 国文科12回生
檀上 和之
(昭和38年卒)

遠き女専時代を振り返る時、 充実感と涙のにじむ思いが重なる



女子専門学校 生活科1回生
筒井 和子 (旧姓 筒井)
(昭和24年卒)

太平洋戦争が終結した昭和20年8月、学業なかばで東洋繊維や日立造船所へ配属されていた私達動員学徒は、母校へ立ち帰りました。1年半以上も学業を離れ、一番楽しかべき青春時代を、モンペ姿に鉢巻という出で立ちで通勤していました。このまま卒業してしまっただけは、我が青春に悔いが残ったことでしょうか。進学したくても、焦土と化した都会へ出ていける状況ではなかったのです。そんな時、尾道に女子専門学校が設立されるというニュースが入り、私は小躍りしたものです。

昭和21年7月1日、希望に燃え新設の女専の門を潜りました。占領下に於ける入学式は、進駐軍が出席し異様な光景でした。それに、学校といっても久保小学校と同居で、国語科と生活科の2教室と職員室があるだけでした。しかし、その思いを払拭したのは、素晴らしい教授陣に恵まれたことで、その授業は一級品でした。勉学の傍ら、テニスやソフトボール、演劇にと思ふ存分羽を伸ばして謳歌した3年間でした。

けれども、楽しいばかりではありませんでした。何時の頃からか女専の運営には経費がかかるという声が出て、なくなるのではという危惧を抱いたものです。その頃、私達一部の者が手分けをして市議会議員や市の有識者を訪れ、学校の存続を懇願して回りました。せっかく誕生した女専をつぶしてなるものかと必死にお継りしました。今や短大から四大へと成長した学校を眺めると、今昔の感があります。遠く女専時代を振り返る時、充実感に浸りつつも、涙のにじむ思いがいたします。これも高齢化の波に乗り、はからずも八十路を歩める故でしょうか。



短期大学 経済科11回生
佐藤 伊助 (若助)
(昭和38年卒)

卒業してからちょうど50年

私は、短大を卒業してからちょうど50年になります。

当時は、尾道南高校の校舎を借りての授業でした。学部も国文科と経済科だけで、こじんまりとしたものでした。体育の授業は、千光寺グラウンドで行われたので、山道を走って登り下りしたものでした。2年生からは、久山田に移転し、新校舎で過ごしました。食堂もありませんでした。図書館も申し訳程度にあるだけでしたが、今考えると素晴らしい先生方が多く、講義も楽しく学ぶことができました。

経済科を卒業したのですが、父が骨董や焼きものが好きだった影響があったのか、私も小さい頃から物を作ることが好きで、陶芸の道に進みました。

そして、現在は、備前焼作家として備前に窯場を持ち住んでいます。尾道にも「備前焼の店」を開いていますので、ぜひお立ち寄りください。

昨年は、お蔭様で「備前市指定無形文化財保持者」の認定をして戴きました。

これまでの皆様の支えと励ましがあつたことに、感謝をしている今日この頃です。



懐かしい学び舎に思いを馳せて



短期大学 国文科24回生
米重 典子 (旧姓 木村)
(昭和50年卒)

今回の原稿依頼を受けて、久しぶりに卒業アルバムを開いてみました。

1975年に卒業してから40年近くになろうとしています。そこに写っているのは、懐かしい学び舎と青春の1コマ、そして若かりし頃の恩師の姿。偶然にも手にした前号の会報には、在学当時お世話になった森山、亀山両先生の記事があり、当時のことが懐かしく思い出されます。

体育祭、大学祭、フォークソング部(時代ですねー笑)、いろいろやりました。なかでも印象に残っているのは、1年生の時、2年生の送別会で演じた「白波五人男」でしょうか。学長以下みんなに大好評を得ました。ちなみに、1年生歓迎会では「珍白雪姫」を演じました。そして、楽しい学生生活はアツという間に過ぎ卒業へ。時代はオイルショックで就職も厳しかったけれど、現代の就活とは比べものにならないほどのんびりしていたように感じるのは私だけでしょうか。今でも少し悔やまれるのは、担当教官に反発して教育実習を受けなかったことで、教職という私にとって魅力ある選択肢を自ら消してしまったことです。

現在の私は、広島県世羅町議会議員として活動しています。学生時代の自分からは、想像もつきませんが、その時々自分に与えられた事を懸命にこなしてきたことが、今につながっていると思います。

今回、母校への思いを振り返る機会をいただきありがとうございます。

近いうちに学び舎を訪ねたいと思います。



母校のさらなる発展を願う



短期大学 経済科36回生
渡邊 祐栄 (旧姓 濱本)
(昭和63年卒)

尾道短期大学を卒業してもう25年が過ぎました。

私が入学した昭和61年は新しい体育館ができた年で、入学式こそ2号教室でしたが、新しい体育館が汚れないようにと、体育の平松先生が「体育館シューズは赤色のゴムは汚れるので、白色のものを…」と、気を使っておられたのを覚えています。

尾道の良かったところは、チューター制度があったことです。これは今の尾道市立大学まで受け継が

れています。私のチューターは就職担当の先生でもあり、就職の時にはいろいろと親身に相談にのってもらい、今でもとても感謝しています。

高校卒業までは、履歴書に書く資格など全く無かった私でしたが、尾道の2年間でワープロ検定など少しか履歴書に書ける資格ができました。小学生に混じって珠算検定を受けた時はちょっと恥ずかしかったです。

また、美術部で行った鳥取旅行のこと、ゼミの刈山先生に子どもが生まれたと聞き、ゼミ生みんなでぬいぐるみをプレゼントしたことなど、とても懐かしく思い出します。

卒業時には、経営情報学科の新設でC棟(半分)が完成した年でもありました。

今ではさらに四年制大学となり、尾道のまちで学生が様々な活動を行っているのを肌で感じ、自慢の母校だと誇りに思っています。

尾道市立大学の益々の発展を祈願しています。

卒業してから1年後の私 少しずつ着実に前進しています



大学院 美術研究科7回生
坂本 実央
(平成25年卒)

卒業してから早くも1年が経とうとしています。私は大学院も含めて、尾道市立大学には6年間在籍していました。

まず1年目。尾道は、初めての一人暮らしをするにはとても恵まれた環境だったと思います。自然に囲まれて、不便で、人や地域と接することが必要不可欠だったことが、生活や制作に大きな影響を与えてくれました。

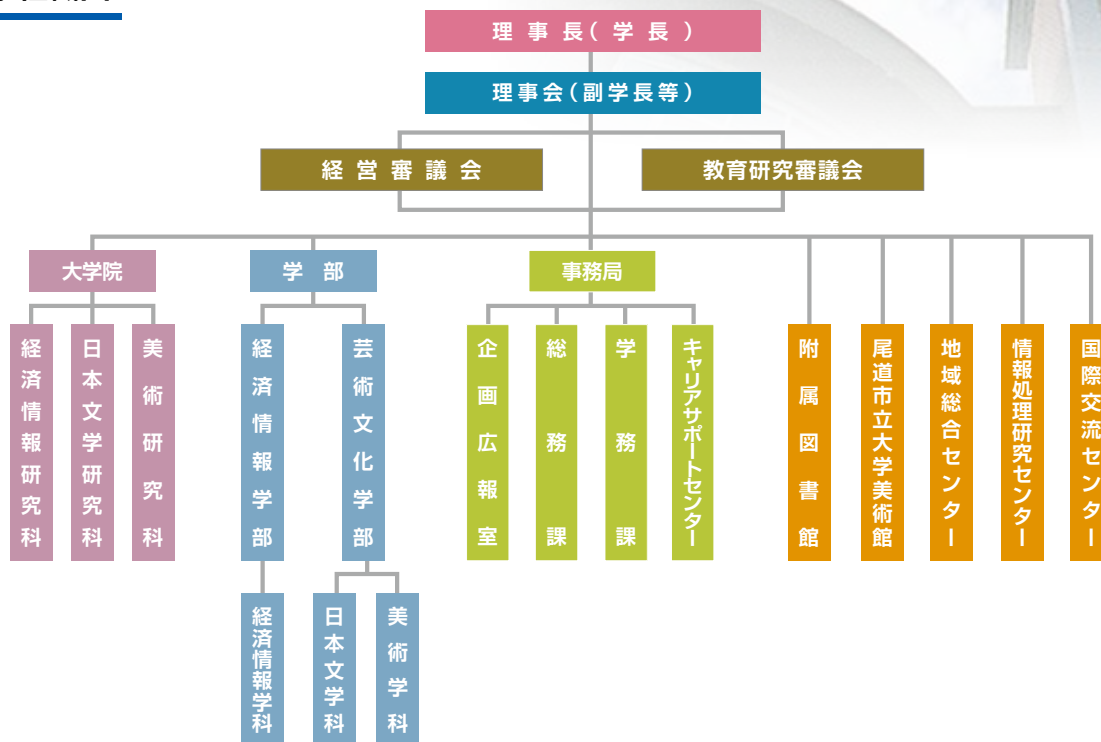
2年目と3年目。自分なりの制作テーマを決めて、とにかく手足を動かす日々でした。取材やプレゼンなど、どれも本格的なものではありませんでしたが、この期間中ずいぶん苦労した記憶があります。

学部生活の一区切りとしての卒業制作で、迷走しながらもとにかくやりたいことをやった4年目。そして、長期的に一つの目標に向かって調査、制作、発表の場を設けた大学院の2年目。一過性に終わらないデザインを考えることに最後まで頭を悩ませました。

こうして振り返ってみると、実験と失敗だらけで、ずいぶん遠回りな日々を送っていたなと思います。しかし、この6年で得た情報と忍耐力で今があることも事実です。私は現在、山口県のデザイン事務所で働いています。これからもまだまだ遠回りな日々が続きますが、少しずつ着実に前進していています。

現在の大学

大学組織図



学長
足立 英之



副学長
川田 一義



副学長
塩川 高敏



経済情報学部長
刈山 和俊



芸術文化学部長
寺杣 雅人



美術学部長
稲田 全示

尾道市立大学美術館

尾道市立大学美術館は、主に卒業生・在学生・教員の制作活動を学内・学外に広く紹介することを目的に2007年に開館し、年間10～12の展覧会を開催しています。旧市街、浄土寺近辺の落ち着いた環境の中にあり、その立地を活かして大学のサテライトスペースのひとつとして、大学の教育研究の内容を広く地域に公開する役割を担っています。



2013年度は、特に美術学科OB・OGによる自主企画の展覧会や、教職員による発表をおこなっています。



尾道市久保三丁目4-11 TEL / FAX 0848-20-7831
開館時間：10:00～18:00 入館無料
休館日：火・水曜日（祝日開館）

※卒業生・修了生による大学美術館での自主企画展を受け付けています。
（詳しくは大学のホームページをご覧ください）



図書館では、図書・雑誌・新聞・視聴覚資料・古文書など様々なメディアの資料を所蔵しています。このほか、データベースの利用もできます。



館内の「高橋玄洋記念室」では、本学の前身、尾道短期大学1期生の脚本家・高橋玄洋氏の著作、脚本、映像、絵画、書、焼き物、書簡、写真など800点余りの貴重な資料を展示しています。

進路状況

進路支援の取り組み状況

進路選択は学生の人生に大きな影響を及ぼす問題です。やりたい仕事に就き、いかに自己実現できるかを基本とし、一人一人に合わせた適切な進路指導を行っています。緊急経済対策などにより景気の回復傾向も見受けられますが、未だに続く厳しい就職環境の中、就職相談、求人開拓、情報提供を通して学生の進路選択を万全の体制で支援しています。

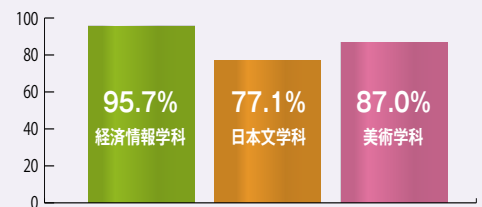
五つの柱による進路支援



就職状況

2012年度卒業生の就職決定率は全体で91.4%となりました。業種別の動向では、経済情報学科は卸・小売業や金融、製造業への進出が目立ち、日本文学学科では学校教育・学習支援への進出が多く見られます。また、美術学科では、デザイン力等を活かし広告業や印刷業への進出が見られます。これは、学生が勉学を通じて専門性を高め、課外活動等に積極的に取り組み、教職員が一丸となって学生の就職活動をきめ細かくバックアップした成果といえます。

就職決定率



2012年度卒業生 主な就職先

- 《建設業》
 (株)佐藤工務店、三和鉄構建設(株)、積水ハウス(株)、大東建託(株)、日本国土開発(株)、ミサワホーム中国(株)
- 《製造業》
 (株)IHI汎用ボイラ、(株)インデップ、(株)エフピコ、鐵萬商事(株)、(株)北川鉄工所、フリナップ(株)、(株)ジーベック、(株)自重堂、タカラスタンダード(株)、名古屋製酪(株)、ユニキャリアハンドリングシステム(株)、(株)レニアス
- 《電気・ガス・熱供給・水道業》
 瀬戸内共同火力(株)、つばめガス(株)
- 《情報通信業》
 アート印刷(株)、(株)アクシス、(株)日立ソリューションズ西日本、(株)KG情報、新日本印刷(株)、(株)トスコ、ピコシステム(株)
- 《運輸業》
 おのみちバス(株)、大王海運(株)、宮崎交通(株)、両備ホールディングス(株)
- 《卸売業・小売業》
 (株)アクセ、(株)アマノ、アンデックス(株)、(株)エムセック、(株)コスモス薬品、(株)ザグザグ、(株)セイエル、(株)外林、大和書店(株)、日本メディカルネクスト(株)、(株)ハローズ、(株)アプレヒまわり、宮地弘商事(株)、メガネの田中チェーン(株)、(株)ユーホー
- 《金融業・保険業》
 (株)愛媛銀行、(株)山陰合同銀行、(株)中京銀行、中国労働金庫、(株)徳島銀行、(株)トマト銀行、おかやま信用金庫、呉信用金庫、しまなみ信用金庫、徳島信用金庫、広島信用金庫、笠岡信用組合、広島市信用組合、備後信用組合

- 《不動産・賃貸業》
 アイレントホーム(株)、(株)タカハシ、ニッポンレンタカー中国(株)、(株)メイクス
- 《専門・技術サービス業》
 Uesaka Consulting Firm、(株)昭栄美術、税理士法人諷澤会計事務所
- 《宿泊業・飲食サービス業》
 山陽工業(株)、(株)朝スコレ・コーポレーション、(株)ミリアルリゾートホテルズ
- 《娯楽業》
 (株)一富士興業、(株)エイチ・アイ・エス、(株)日本旅行
- 《教育、学習支援業》
 (株)鷗州コーポレーション、(株)早稲田アカデミー、(株)明光ネットワークジャパン
- 《医療、福祉》
 (株)イー・ケア、脳神経センター大田記念病院、広島県厚生農業協同組合連合会
- 《複合サービス業》
 岡山県商工会連合会、JA岡山、JA福山市、JAにしみの、トモテツグループ、日本郵便(株)
- 《サービス業》
 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構、(株)都市ビルサービス、(株)ネオキャリア、(株)ライヴス
- 《公務》
 三原市役所、姫路市役所、小豆島町役場、吉備中央役場、串本町消防本部、岡山県警察、広島県警察、陸上自衛隊

地域総合センター

地域総合センターは、尾道市を中心とする地域との連携を深め、社会・経済・文化の発展に貢献することを目的として2004年に設置した大学内の機関です。

主に学生・教員の地域活動のサポートや公開講座の開催を行っています。公開講座は誰でも自由に参加することができ、市民の方も多く参加して頂いています。(公開講座の情報は、尾道市立大学HP内「地域貢献」→「公開講座」をご覧ください。)



③



④



◆ 地域の中の尾道市立大学

◎ 地域をベースとした研究…

尾道市立大学では、地域をベースとした研究の実践を行っています。日本文学科と美術学科の教員と学生が共同で尾道の文化や事象・人物等を掘り下げて取材・制作したフリー冊子も発行し、フィールドワークの場が広がっています。また、地域企業や行政から受託研究として商品のデザインや調査の依頼を受けることも行っています。尾道の祭りやイベントでは、ポスターやリーフレットの制作など教員や学生が地域と深く関わり活動しています。

◎ 研究発表の場…

尾道市立大学は市民の皆さんとの文化交流の場づくりを目的として、教員の専門分野を活かしたワークショップや、学生・教員の研究成果を市民に公開する講座を市内で開催しています。また、毎月決まった曜日に街中で公開ゼミナールも行っており、どなたでも自由に参加する事ができます。開催内容は、大学のホームページでお知らせしておりますのでご覧ください。

- 【写真】**
- ① おのみちてぬぐい／美術学科 森田菜摘さんによるデザイン 全8種類（尾道観光土産協同組合ええもんや）
 - ② ROSE SPARKLING／美術学科 松永華奈さんによるワインのパッケージシールデザイン（株式会社セラアグリパーク セラワイナリー）
 - ③ 「街中ゼミ」／経済情報学科 小川研究室主催
 - ④ 「因島のカラス神事」／出張講座・研究調査発表 日本文学科 藤井佐美研究室・大学院日本文学研究科 栢木希望さん

◆ 尾道で活動する卒業生



大学 美術学科 9 回生

山本 晶大

(平成25年卒)

大学を卒業してもうすぐ一年になります。大学一年の終わりの春休み、ぼろぼろの空き家を借りて自分の手で直しながらそこに住み始め、生活するための環境を作り、創作するためのアトリエを作り、その過程を記録し、卒業制作として発表しました。廃墟同然だった建物は家賃もタダ同然で、今も気まぐれに手を加えながら住んでいます。

私は創作活動を続けていくために敢えて就職活動をしない道を選びました。家賃があまりかからず生活費を低く抑えられることと、芸術に対して歓迎的な尾道の環境がそれを可能にしてくれたのだと思います。卒業して最初の数ヶ月は卒業制作で公開した作品を見てくださった方々からの依頼や、大学生の間に交流してきた尾道の方々から頂いた仕事をして過ごしました。学生という身分がなくなり、責任を分散して背負ってくれる企業にも属さないまま社会人になったことや、不安定な収入で苦勞した部分も少なくありませんが、生身で

体当たりしていったことで深く刻み込む様に学べたことも多くありました。

現在は商店街のNPOから仕事を頂いて街の中に学生向けの貸しアトリエを作って運営したり、自分の創作活動を進めて作品発表したりしながら、尾道の中で様々な人達と関わり暮らしています。

創作活動をしていくには環境に恵まれることが重要になってきます。尾道がこれからも良い環境であり、良い環境を作れる人を輩出していく場であって欲しいと願います。





大学 日本文学科4回生
藤井 優希
(平成20年卒)

尾大の魅力

尾道大学に入学したのは2004年。短大から四年制に移行して4年目、1年生から4年生まで揃った年でした。勉強や遊び、バイト以外にも部活やサークル活動、大学祭の実行委員長を務めるなど本当に充実した学生生活でした。学外のNPOなどまちづくり活動にも多く関わりました。卒業してからも、同期の友人数人と定期的に集まっていて、現在、九州や関東に住んでいる友人とも年に1度は尾道で集まり近況報告や思い出話を花を咲かせたり、一緒に旅行に出かけたりもしています。卒業後私は、尾道に住んでいるので、市外に住む同期が尾道を訪れる際、「尾道に帰る」と連絡をくれます。尾大がある尾道は遊びに行く場所ではなく「帰る」場所。楽しい大学時代を過ごした尾道は第二の故郷。それだけ、本当に良い大学生活が友人たちと過ごせたのだと思います。

現在、私は尾道ケーブルテレビやエフエム尾道などでアナウンサーとして働いており、取材やインタビューで現役の尾大生や先生方とお会いする機会もたくさんあります。尾道市立大学と改称され、新しい校舎が建つなど、大学の環境や雰囲気は変わっていきますが、学内に入ると、当時の楽しかった思い出が蘇り、いつも懐かしく感じます。尾道の情報や魅力を伝える仕事をしているので、これからも、尾大の卒業生として色々な形で母校に関わっていきたいと思っています。

また、2014年で入学からちょうど10年。同期の友人たちと出会って10年になるので、もっと大勢で集まって同期会がしたいねと話しているところです。



肴

卒業して9年。世間では、楽天の田中将大の移籍先はどこになるのか？東京都知事は誰になるのか？原発政策は今後どうなるのか？などに注目が集まっている。

私が今、注視しなければならないのは、この原稿用紙に限りなく続く白紙と、この原稿用紙に向う原因となった、大学入学当時からの隣人であった、会報の編集委員橋野氏についてである。思えば、あのアパートに住み、隣人に挨拶でもとインターフォンのボタンを押した時、既に今こうして原稿用紙に向うことは決まっていたのかもしれない。

あのアパートに住み始めたのも尾道大学に入学したからこそ。出身も学部も違って縁はどこに転がっているかわからないもので、一期生としての入学ではあったが、尾短生の先輩がおられて、部活やサークル・学内行事など貴重な一年を過ごさせていただいた。結果、一年といわず未だに続けている縁もある。私がこの原稿用紙一マス一マスに思い出を詰め込んでいる今日という日も、先輩鳥飼氏、日文の同期生横原氏の誕生日であり、3日前は先輩小北氏の誕生日ではなかったか。この場を借りて「ハッピーバースデー」。誕生日パーティーをしていた頃を懐かしく思う。

私は現在、福山市で住宅関係の営業をしている。仕事柄、縁を意識することが少なくないが、会社の後輩や取引先に尾道大学・尾短生の方がいると、とてもうれしく思う。とりわけ、量・質共に満足な商店街の定食屋さんの話が出来ただけで盛り上がる。ニュースなどで尾道の話があると、思わず耳を傾けてしまう。山手地区の古民家再生生活用のニュースを見た際には、卒論で尾道のまち並みについて取り上げたこともあって嬉しく思い、久しぶりに山手を散策したくなった。



大学 経済情報学科1回生
大下 真琴
(平成17年卒)



大学 美術学科1回生
中曾 智子
(平成17年卒)

これまでの縁、これからの繋がり

尾道大学の一期生として卒業して早9年。再び縁をいただき、現在、美術学科デザインコースの助手を勤めています。

2001年、美術学科1期生として入学し、真新しい学び舎で学ぶ中、先輩という身近な御手本がない私たちに、先生方は教員としてだけではなく、作家やデザイナーとして前を歩む先輩としても接してくださいました。その姿を御手本とし、ものづくりする者としての第一歩を踏み出しました。

卒業後、大学在学中に出会った陶芸をより専門的に学ぶため、岐阜県の高岡市陶磁器意匠研究所へ進学。研究所での生活も終盤に差し掛かり、就職活動も終え、卒業制作の仕上げに励んでいる折、大学の先生から久しぶりにお電話を頂きました。内容は「助手として大学に帰って来ない？」もしかしてこれは人生の分かれ道の第一歩になるかも…。各方面に相談し、悩んだ末、これも縁と尾道へ帰ることを決め、今に至ります。

現在は、助手として実習・講義・事務等が円滑に進むよう補助を行いながら、自身の制作活動も行っています。業務としての役割もありますが、この大学を卒業した先輩として、学生と教員、そして卒業生を繋ぐ役割を担うことができればと思い勤めています。

今年の6月には、美術学科1期生の展示会を大学美術館で行います。今回で4度目の開催です。現在各地で制作活動をしている同期たち。ものづくりの始点となった尾道で、後輩や支えて頂いた先生方、地域の方に卒業生の今をご報告すると共に、今までとこれからの繋がりを大切にしていきたいと考え開催している展示会です。会場でみなさんと新しい繋がりを築くことができれば幸いです。





◆ 学位記授与式

尾道市立大学第9回学位記授与式が、平成25年3月22日（金）にJR尾道駅前のしまなみ交流館で行われ、311名の学生が社会に巣立っていきました。

また、尾道市立大学大学院第7回学位記授与式が同時に行われ、12名の学生が修士学位を授与されました。

◆ 卒業祝賀会

授与式終了後、尾道国際ホテルにおいて、同窓会主催により卒業祝賀会を開催し、同窓会長・同窓会役員、学長以下教職員とともに、卒業生の門出を祝福しました。会場では、第9回生幹事の紹介のほか、退任される恩師への花束贈呈などが行われました。



◆ オープンキャンパス

平成25年8月9日（金）、オープンキャンパスが実施され、高校生や保護者の方など1,000名を超える参加があり、大盛況のうちに終了しました。



◆ 大学祭

平成25年11月10日（日）、第12回翠郷祭すいこうさいが、昨年に引き続きJR尾道駅前一帯で開催され、多くの市民の方や観光客の方々も来場されて盛り上がりました。





平成25年度 同窓会総会

平成25年6月23日(日)11時から、しまなみ交流館2階大会議室において、平成25年度尾道市立大学同窓会総会を開催しました。

平成24年度事業報告・決算報告、平成25年度事業計画案・予算案、役員の改選等の議案が審議され、承認されました。

同窓会名称変更

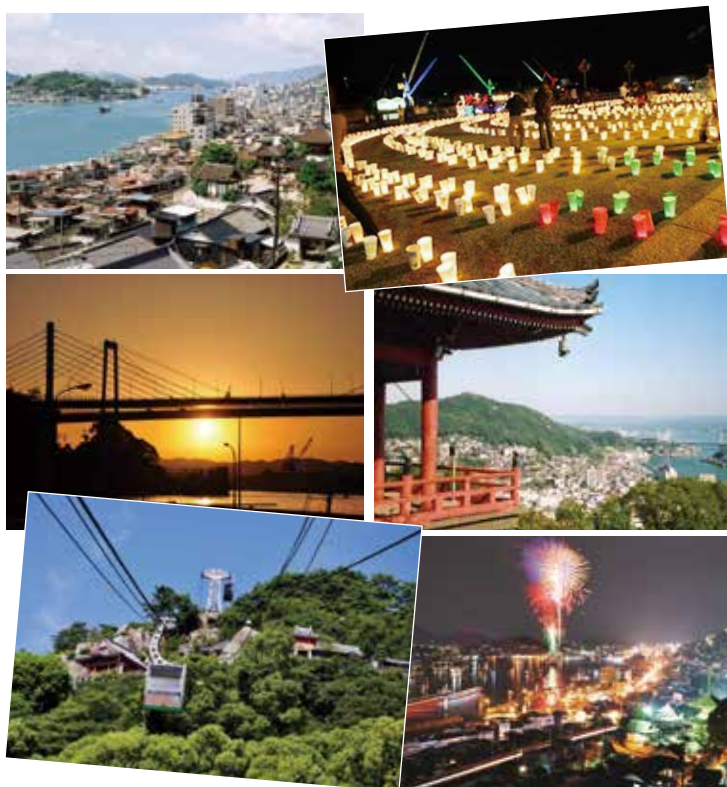
大学は、平成24年4月1日に公立大学法人へ移行し、名称が「尾道市立大学」となりました。これを受けて、同窓会も平成24年度の総会で「尾道市立大学同窓会」へ名称を変更しました。

尾道市立大学同窓会総会



同窓会から図書(専門書・学術書・電子書籍等)611点(1,000万円相当)を大学附属図書館に寄贈しました。

平成25・26年度同窓会役員	会長	若住 久吾	短大	経済科	8回
	副会長	榎本 禎子	短大	国文科	11回
		檀上 和之	短大	国文科	12回
	理事	山本 陽三	短大	経済科	6回
		前田 研治	短大	経済科	7回
		木曾 富夫	短大	経済科	9回
		岡田 逸彦	短大	経済科	14回
		安楽城恵子	短大	経済科	18回
		高畦八重子	短大	国文科	24回
		村上 理恵	短大	国文科	31回
		渡邊 祐栄	短大	経済科	36回
		片平 絵美	短大	経営情報学科	11回
		豊田 和之	短大	経済科	50回
		橋野 仁史	大学	美術学科	1回
		守本 桂子	大学	美術学科	5回
		清家功一郎	大学	経営情報学科	6回
		黒口 葵	大学	経営情報学科	7回
	監事	中西 正信	短大	経済科	8回
		横原 清隆	大学院	経営情報研究科	1回
	顧問	小島 雅由	短大	経済科	2回
会計	岡本奈都美	大学	美術学科	7回	



第1回ホームカミングデーを開催します。



(完成予想図) 手前が新しい校舎 (E棟)

ホームカミングデー

卒業・修了生に母校にお帰りいただき、学生時代を過ごしたときを振り返るとともに、同窓生や恩師と語り、交流を深めていただくことを目的にホームカミングデーを開催します。

平成26年の春、新校舎が完成します。そして、なつかしいA棟とB棟は、それぞれの役目を終えて平成26年の夏以降とりこわす予定としています。

第1回のホームカミングデーは、同窓会と期日を共にし、午前中に同窓会総会、午後からホームカミングデーを行います。

日 時

平成26年 6月22日(日)
13時30分～17時00分

場 所

尾道市立大学内

内 容

○記念講演会 高橋玄洋氏の記念講演を行います。

場 所 E棟大講義室 時間13:30～15:00

※高橋玄洋氏の記念講演に出席の場合は、メールまたは官製はがきに住所・氏名を記入のうえ、お申し込みください。

申込期間 平成26年4月10日(木)～平成26年6月10日(火)

申 込 先 〒722-8506 広島県尾道市久山田町1600番地2

尾道市立大学事務局総務課

e-mail:j-soumu@onomichi-u.ac.jp

※後日、大学のホームページでもお知らせいたしますのでご覧ください。

高橋 玄洋 (たかはし げんよう) 尾道短期大学 国文科1回生

昭和4年、島根県松江市生まれ。市立尾道短期大学国文科を卒業後、早稲田大学文学部を卒業。テレビドラマや小説を多数執筆し、昭和47年のNHK連続テレビ小説「繭子ひとり」などにより芸術選奨・文部大臣賞を受賞。この他、「野々村病院物語」や「さよなら三角またきて四角」など最盛期には年間100本のドラマ脚本を書き「視聴率の魔術師」と呼ばれた。

○学内見学 なつかしい校舎、新しい校舎を散策してください。

場 所 大学内 時間13:30～17:00

○当日学内で同窓会をされる場合は、教室の貸し出しが可能ですので、事前に事務局総務課にご相談ください。

場 所 大学内 時間13:30～17:00

事務局
総務課

〒722-8506

広島県尾道市久山田町1600番地2

電話 (0848)22-8311

e-mail j-soumu@onomichi-u.ac.jp

URL <http://www.onomichi-u.ac.jp>

平成26年度 同窓会総会開催のお知らせ

平成26年度同窓会総会を次のとおり開催いたします。

日 時 平成26年6月22日(日) 11時～12時(申込不要)
※昼食を用意いたします。

場 所 尾道市立大学内

同窓会総会の詳細については、後日同窓会ホームページでお知らせいたします。

同窓会総会は、毎年1回6月の第4日曜日に開催します

住所変更等のお願い

転居・結婚等で住所や氏名を変更された方は、同窓会事務局へご連絡ください。

卒業生のご友人等で会報が届いていない方がおられましたら名簿の住所等の変更ができていない可能性があります。事務局へメール・FAX・ハガキ・電話などでご連絡をお願いいたします。



尾道市立大学同窓会事務局

〒722-8506 尾道市久山田町1600番地2 尾道市立大学内
TEL 0848-22-8311(代) FAX 0848-22-5460

E-mail dousoukai@onomichi-u.ac.jp
URL <http://www.onomichi-u.ac.jp/dousoukai/index.html>